



次

々と斬新さに挑戦していく日本に比べ、ロシアでは古き良きものが一番にあるように感じます。子供たちはいくつものロシア詩を暗誦しながらロシア語を覚え、大人たちは何度もロシア古典劇を鑑賞するために舞台上足を運びます。

海外からさまざまな作品を持ってきて、話題性のある企画展を行うと、芸術を志向する人たちが集結する日本の美術館に比べ、たとえばトレチャコフ美術館では、ロシアの絵画の始まりから現在までが常設されています。順路に沿って歩いていくだけで、絵画そのもの



の素晴らしいのみならず、そこからロシアの歴史や文化、風土、慣習までを味わうことができるため、連日ロシアの小学校の多くの子供たちが授業の一環としてここを訪れ、幼いころから積極的に自分の国の素晴らしさに触れています。

日本のバブル期とも比較される現在のロシアですが、高級レストランや高級外国食材スーパーに外車で乗りつけ、年末年始には海外に出かけ、劇場の一番良い席に海外高級ブランドでドレスアップして座っているのもロシア人。そうかと思うと、窓ガラスの割れたソ連製のジグリに乗って、道行く人



を乗せてはお小遣い稼ぎをしたり、手作りの服を着てダーチャ（郊外の菜園つきの家）で採れた野菜や花を道端で売ったり、「めぐんでください」と書かれたダンボール紙を手にしち尽くしているのもロシア人。

ロシアに暮らす日本人で、ロシア公務員の日本語アナウンサーである私ですが、外国で生活すればするほどに、日本に興味がわき、日本人であることを意識させられます。

変化するロシア

あなたの知らないロシアをお届けします

ロシアナのロシアな話 2008



“сейчас!”(今すぐに)というロシア語の中の“час”は1時間を意味し、“сегодня!”(今日)というロシア語の中の“год”は1年を意味します。ロシア人が「今すぐに!」と言ったら、それは1時間後だろうと見当をつけ、「今日中に!」と答えたなら、1年後だろうと覚悟する……。

BRICsのひとつでありながらG8のひとつでもあるロシアでは、世界のスタンダードも日本の常識も、まだまだ通用しません。今回はロシア・ビジネスを始める前に、知っておくと得をするロシア人のビックリを、ロシア国営放送アナウンサーの、いちの△友里がご案内します!